

東ティモールにおける戦争孤児への心理的支援

—インドネシア支配からの解放時の混乱から発生した戦争孤児の状況調査—

文珠紀久野¹⁾ 文珠 幹夫²⁾ Sr. MARIAFE Silva³⁾

要 旨

東ティモールのインドネシア支配からの解放に伴う戦乱状況で生じた戦争孤児に対し、心理的状态を把握するためにバウムテストを実施した。その結果、家庭で過ごしている子どもと比較して、自我の萎縮、防衛の強さ、内的不安の高さが見いだされた。家庭で過ごしている子どもの中にも、防衛の強さと不安の高さを示す子どももみられた。戦争孤児が負っている心的外傷の大きさが同われ、早急のケアとサポートが必要であることが示唆されている。

キーワード：心的外傷、バウムテスト、戦争孤児

東ティモールは1975年にインドネシアの軍事侵攻を受け、24年間の軍事占領下で総人口の約30%以上の人が殺されたり行方不明となったと言われている。その間強姦や拷問を受けた女性は数知れない。その中には強姦をしたインドネシア軍人の子どもを産まざるを得なかった女性も多数存在する。両親を失った子どもや目の前で親兄弟が殺されたり、母親等女性の強姦を目撃した子ども、さらには、強姦の結果生まれた子どもの中には親から見捨てられた子どももいる。(高橋・益岡・文珠 1999、高橋・益岡・文珠 2000)

特に、1999年の独立を決めた住民投票後のインドネシア軍とそれに支援された民兵の殺人を含む暴力はすさまじく、数千人が殺され全土の約80%以上の建物が破壊された。そのときの暴力の恐怖を子どもたちは強く感じ、その結果心的外傷を受けた子どもたちは多数存在すると考えられる。

特に、親を殺されその結果戦争孤児となった子どもたちが受けた心理的ダメージは非常に大きいと考えられる(古野 2001)、さらに、戦争孤児となった子どもたちは東ティモール内にある孤児

院に救出され、生活している。しかし、その状況は劣悪であり、様々な物資の不足とともに、子どもたちをケアするスタッフも不十分である。(Unisef 2001) さらに、ケアスタッフも心的に様々なダメージを受けていること、スタッフ自身も心理的サポート面における専門的トレーニングを受けていないという状況にある。そのために子どもたちへの十分なケアとサポートができないという問題がみられる。

現在国連暫定統治の下、東ティモールは国造りと復興に向け活動しているが、失業率も高く(約70%以上)人々は生活に困窮している。心に傷を負った女性や子どものケアにまで手が届かないのが現状である。今後、この問題は東ティモールの大きな社会問題になると思われる。長期的展望を持ちつつも、緊急の支援、特に心理的・精神的支援が求められている。それを実現していくためには、第一に早急な実態調査を実施し、現状把握が必要と考えられる。(Modvig J. et al 2000)

そこで、研究目的の第一は、戦争孤児の実態を把握すること、第二は、彼らに対する心理的支援

(所 属)

1) 山梨県立看護大学

2) 大阪東ティモール協会

3) President of Orphan Asylum in Laga East Timor

(専攻分野)

臨床心理学

国際関係学

社会福祉学

のあり方を検討し、試行すること、第三に、長期にわたる支援の必要性が高いことから、東ティモールにおけるサポート体制とスタッフ養成のあり方を探ることである。

今回の目的は、研究目的の第一である戦争孤児の実態を把握するために、親を独立時に殺されたために孤児となった子どもの心理状態を検討することである。彼らの心理状態を分析するために、両親と暮らし、戦乱の影響をあまり受けなかった子どもとの比較検討を行う。

<方 法>

・対象

- 1) 独立後東ティモールで生活している戦争孤児 (Aグループ) 5名 (全員女)

*女子のための孤児院には120名が在籍しているが、大多数の子どもは夏休みのため、親戚あるいは近隣の人が一時預かりをしている。孤児院に残留していて、絵が描ける6歳以上の子どもに実施した。

- 2) 両親と暮らしている子ども (Bグループ) 15名 (女5名、男10名)

・使用した心理テスト

言葉や生活習慣等の影響の少ない投影法の「Baum Test」を使用した。

・実施者

心理の専門家よりトレーニングを受けた研究者

・実施状況

1対1での個別状況で行い、次のインストラクションを用いた。

「これから実のなる木をこの画用紙に鉛筆を使ってあなたが思うままに描いてください」 木が描かれた後、

「この木は何の木ですか？描いていたときどのようなことを思っていましたか？」の質問を行った。

ただし、東ティモールの言語には多くの方言があり、実施者のtetun語が通じない場合は通訳を介して行った。

孤児に対しては、孤児院内の1室を使った。両

親同居の子どもたちには、教会の外階段や海岸での戸外で実施した。(写真1、2)

実施状況はVTR録画を行った。

実施時期は2001年9月1日～9月9日である。



写真1 Baum Test実施状況 (教会外階段で)

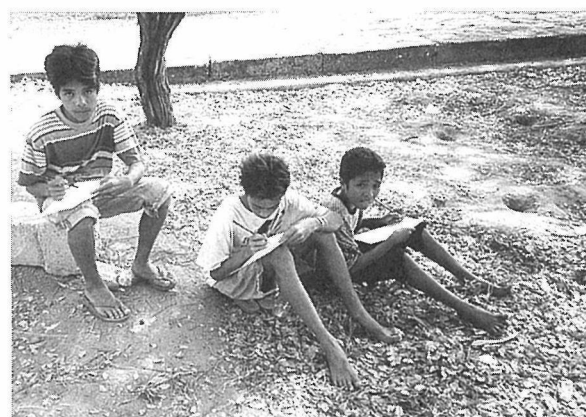


写真2 Baum Test実施状況 (海岸で)

<結 果>

1. Aグループの子どもたちのバウムテスト (図1～図5) の分析結果

6歳女子 (図1) : 左上方に描かれた2本の木から、自己内閉性、空想性、強い不安や退行が伺われる。年少であることを考慮に入れても、未熟さ、無力感、感情の否定、心的エネルギーの不足が見られる。

7歳女子 (図2) : 空間位置関係から、自信欠如、不安定な精神状態がみられるが、筆圧からは活動性、心的緊張感の高さ、攻撃性が伺われる。内容を検討すると、自己の内面を豊かにしようとの試みがなされ、現実の環境との妥協を図ろうとしている面と、自分の不安等を他人に知られない

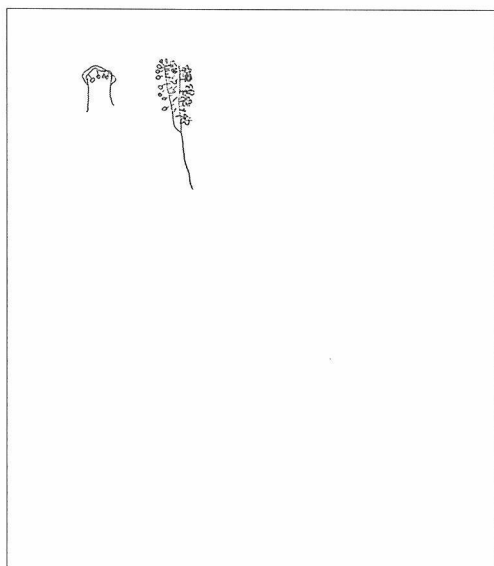


図1 6歳女子



図4 11歳女子

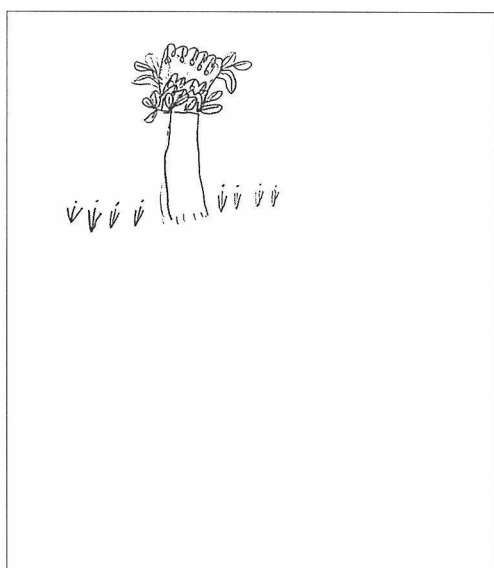


図2 7歳女子

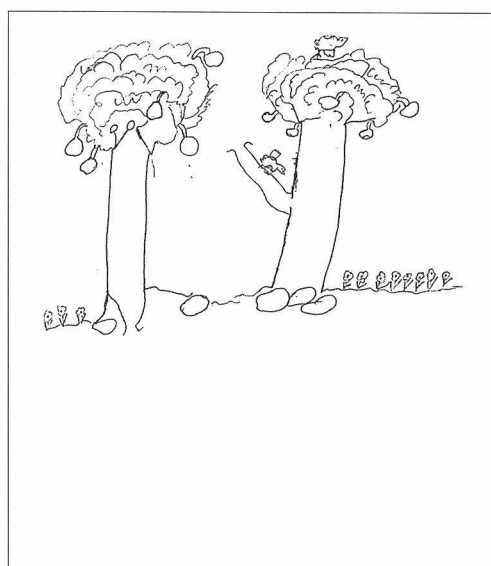


図5 14歳女子

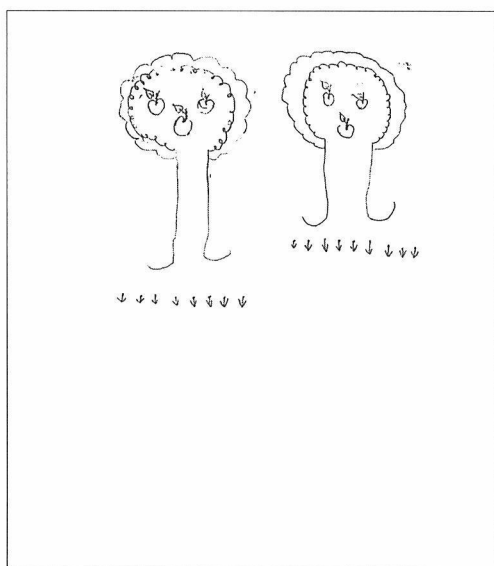


図3 8歳女子

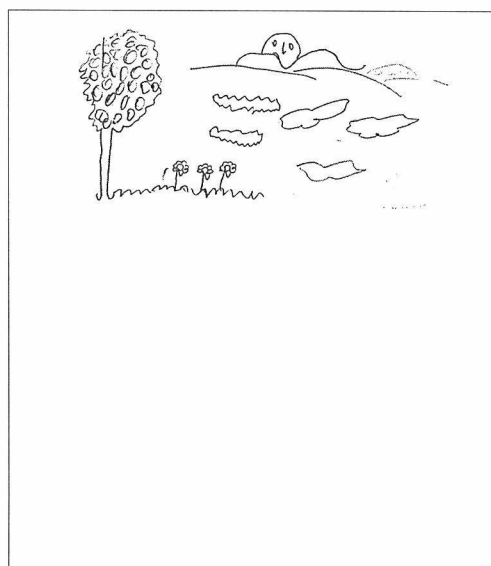


図6 7歳女子

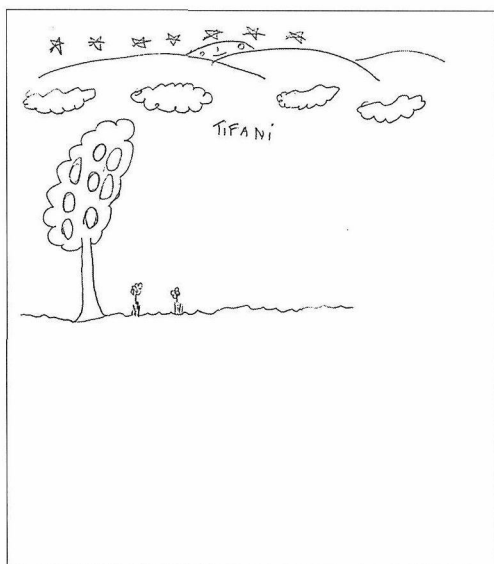


図7 7歳女子

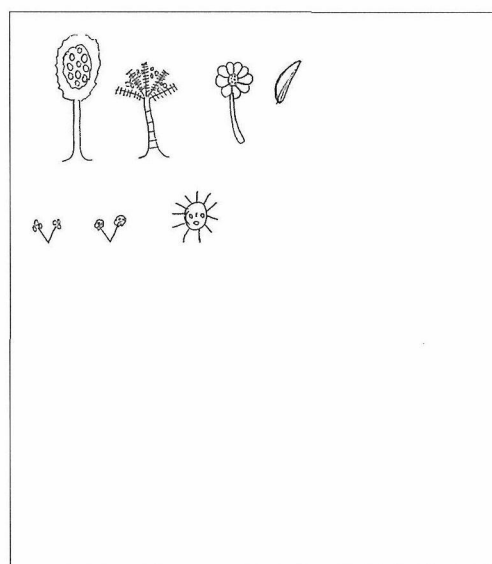


図10 11歳女子B

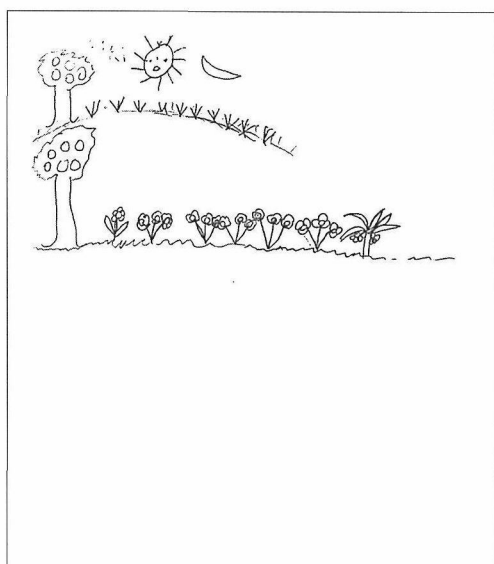


図8 8歳女子

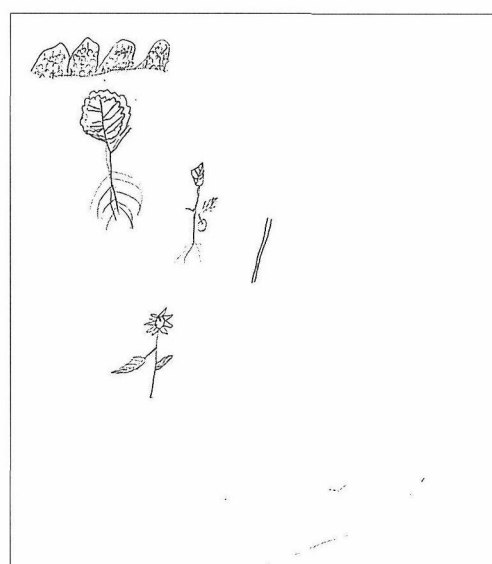


図11 10歳男子

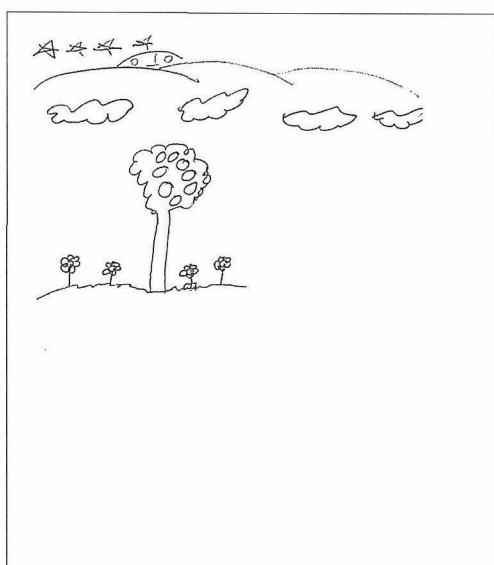


図9 11歳女子

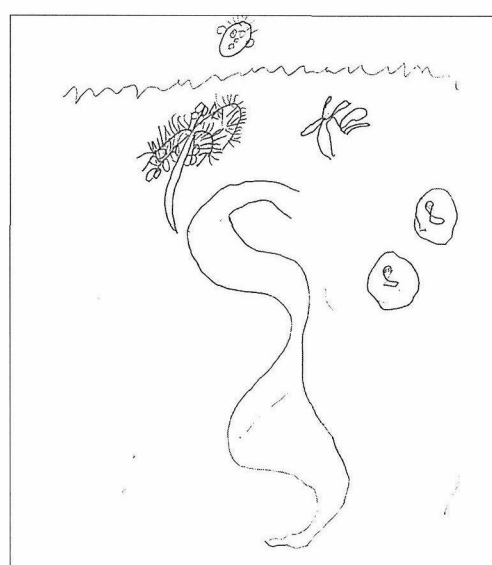


図12 11歳男子A

ように隠そうとしている面がみられる。

8歳女子(図3)：上方に描かれた2本のリングの木から、現実には根ざさず不確実な状態や空想的世界への逃避傾向を示している。内容分析から自己意識、自信の欠如、自己防衛の高さが見られる。

11歳女子(図4)：空間全体を使って描かれている。5人の中では最も心理的に安定している様子を見せている。自信、活動性の高さを示し、自己成長へのエネルギーを有している。しかし、空想的で現実感の欠如が見られ、自己防衛の高さを示している。

14歳女子(図5)：上方にマンゴーとパパイヤの木が描かれ、両方とも家にある木とのことである。2羽の鳥が木に止まっており、希望、家族との暖かい交流への希求を示している。樹冠の様子から自己を防衛し、抑鬱気分を表している。途中からのびた開放の枝からは自己と外界の境界の曖昧さ、感情統制の不十分さがみられる。

2. Bグループの子どもたちのバウムテスト

Bグループバウムテストの分析結果を図6～図20に示す。

7歳女子(図6、7)：2人のバウムテストは非常に類似している。上方に描かれてはいるが、内容的に豊かであり、子どもらしい絵となっている。空想的で感情的に行動する傾向を示しているが、全体としてのまとまりがみられる。多くの実から子どもとしての未熟さや自己顕示性の高さを示している。

8歳女子(図8)：上方に描かれた2本の樹と風景がみられる。空想的で子どもらしい感情を示す絵であり、心理的安定と衝動の統制が可能となっていることを表している。

11歳女子A(図9)：上方には描かれているが全体としてまとまりのある絵となっている。空想的な面も有しながらも、自己統制が出来、心理的にも安定していることを示している。

11歳女子B(図10)：長い時間をかけて描かれたバウムである。7つの絵が描かれている。自己が拡散し、統制が不十分な状態を示している。左上方の樹をみると自己防衛が強く現れ、不安等の

感情が大きいことが伺われる。

10歳男(図11)：左上方に5つの絵が描かれている。根が描かれ、無意識の衝動への気づきが見られ、観察力の鋭さを表している。垂れ下がった葉からは悲しみや悲哀感が伺われるが、全体としては前進へのエネルギーがみられる。左上方の中央に描かれた絵から、内的不安と自己防衛の高さが示されている。

11歳男A(図12)：絵全体から若干知的な問題を感じさせるが、活動的で元気を有している反面、悲哀感や不安を示している。

11歳男B(図13)：紙面中央に描かれた椰子の木から、安定した心理状況にあり、過去に基づきながら未来への希望を有していることを示している。しかし、樹皮の状態からは自己を防衛し、他人が自分の感情面に触れることを拒否しようとする傾向を示している。

12歳男A(図14)：上方に描かれた強い筆圧の絵から、高い心的エネルギー、活動性を示している。また、左から右へと流れる川は、本児の過去から未来への志向、生への強い能動的態度、より現実にむかって生きようとする力を表している。しかし、本児の内面に関しては強く防衛し、他者との関わりに敏感な様子を見せている。

12歳男B(図15)：上方に描かれた絵全体からは寂しさや喪失感を示している。左端の樹は曖昧であり、無意識においてエネルギーが曖昧となり、強い不安を有しているようである。右端の樹からは悲哀感を伺わせている。

13歳男(図16)：6つの絵が描かれている。中心に描かれた樹から見ると、心理的には幼児段階にとどまり、発達面での未熟さが伺われる。左端の透明性の絵からはパーソナリティの統合が不十分であることがみられる。

14歳男A(図17)：7つの絵が描かれている。左上方の絵から、非常に強い自己防衛、対人関係への不安の強さ、自己の衝動性を隠そうとする面が見られる。また、上方中央の透明性を有する絵からは不安定なパーソナリティの状況を示している。

14歳男B(図18)：全体には未熟な発達段階に

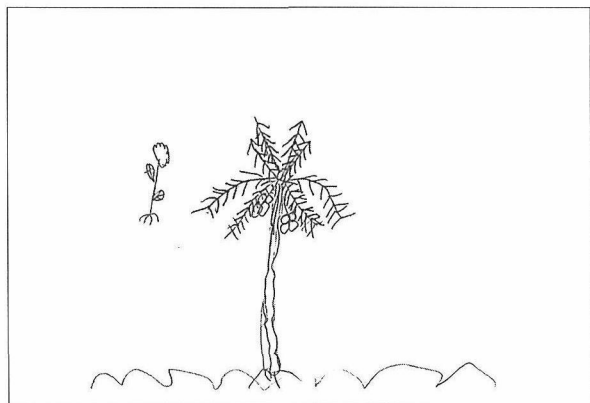


図13 11歳男子B

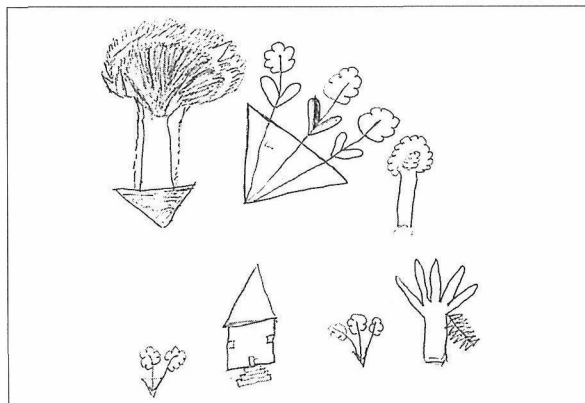


図17 14歳男子A

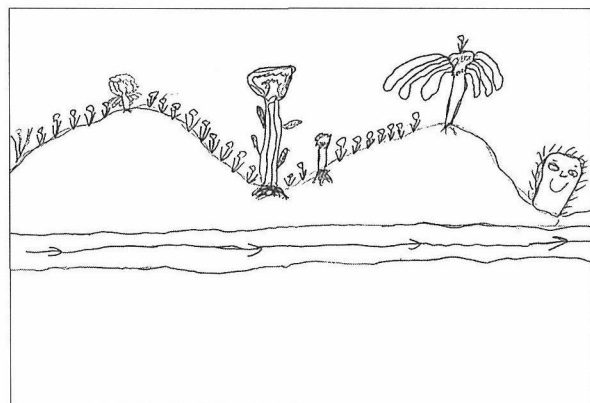


図14 12歳男子A

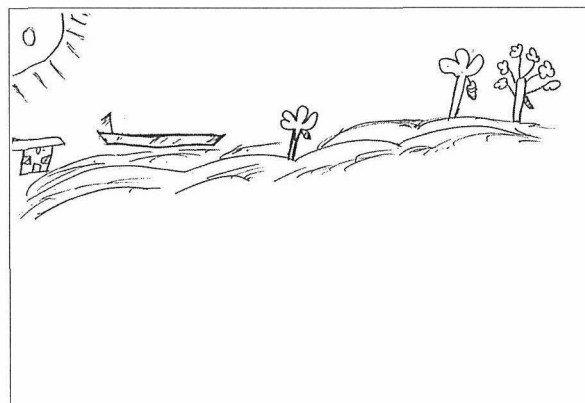


図18 14歳男子B



図15 12歳男子B

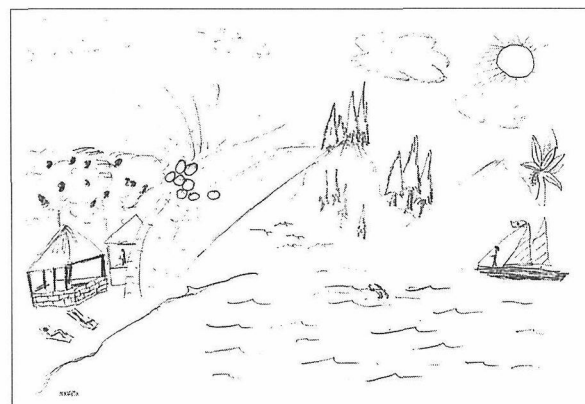


図19 14歳男子C

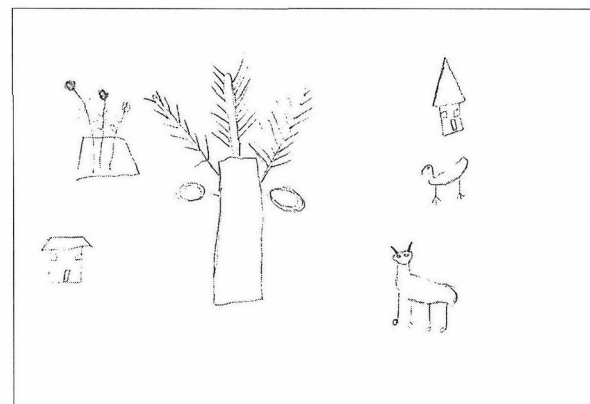


図17 13歳男子B



図20 14歳男子D

とどまっていることを示しており、悲哀感も強い。しかし、未来にむかって前進しようとする力を有し、親からの自立を果たそうとしていることを示している。

14歳男C（図19）：画面一杯に統合された絵が描かれている。現実と関わりながら自己を統制して前進しようとする力を強く持っている。左はしにある樹の切り取られた枝からはなんらかの断念を経験したことを表しているようである。

14歳男D（図20）：画面全体を使って描かれている。陰影のある絵であり、知的能力と完全癖の高さを示している。中央に描かれた樹から本児の内的不安が示されている。

<考 察>

東ティモールの子ども達にとって、画用紙と鉛筆を持って「絵」を描くことが非常に珍しく興味深いことと捉えられていたこともあって、調査には非常に協力的であり、自発的かつ熱心に描こうとしていた。

そういった中で、戦争孤児と家庭保育の子どものバウムテストを比較検討すると、5人の戦争孤児の子ども達は、内的不安の高さ、空想的で現実感の欠如、強い自己防衛を示している。また、自我全体が十分に発達できず、自我萎縮が見られる。

津田（1992）によると、バウムテストの表現に養育環境の影響がみられると言われている。養護の必要な子どものバウムは小さく、空間領域に偏りがみられ、一線幹の木であると言われている。

反面、家庭で養育されている子ども達は、子どもらしい空想的世界を有し、心理的にも安定し、日本の子どもと比較すると若干発達の未熟な状態であるが、ほぼ順調な発達を遂げていると思われる。しかし、その中でも、11歳女子B（図10）、12歳男B（図15）、14歳男A（図17）のように自己を統合しきれず不安を内在し、悲哀感を強く有している子どもも見られる。

こういったことから、戦争孤児となった子ども達の心理的傷は非常に大きく、早急の対応が求められていると思われる。また、家庭で養育されている子ども達も、東ティモール全土が戦乱にさら

されたことによって、不安定な心理状況を有していると思われる。

<今後の課題>

戦争孤児となった子どもは東ティモール全土で約1,500人を越えて存在すると言われている（UNICEF 2001）。今回はその一部の子ども達に対して心理テストを実施したが、今後、可能な限り多くの子どもへの調査を実施する予定である。子どもたちの心理状態を把握することによって、心的外傷を負った子どもへの支援方法とその内容に関する示唆が得られることが期待される。

また、使用した心理テストは文化・社会的背景の影響を受けることの少ない投影法を用いたが、子どもへの面接、養育者へのインタビュー等を併せて実施し、より詳細な検討を実施することも必要であると考えている。

それは、津田（1992）も述べているように、バウムテストにおける目隠し分析には限度と危険性を伴っており、子ども達の養育環境、生育歴等と併せて分析する必要があると思われるからである。

<謝 辞>

今回の調査を快く引き受けてくれた子ども達と孤児院のシスター方に感謝申し上げ、この研究が子ども達の心身の成長の一助となることを願っている。

参考文献

- 古野喜政 2001 ユニセフの現場―東ティモール日記、日本ユニセフ協会大阪支部設立準備室
- Koch, C. 1970 バウム・テスト―樹木画による人格診断法（林勝造・国吉政一・一谷彊訳）、日本文化科学社
- Modvig, J., Pagaduan-Lopez, J., Rodenburg, J., Salud, C. M. D., Cabigon, R. V., Panelo, C. I. A. 2000 Torture and trauma in post-conflict East Timor, LANCET, vol. 356, No. 9243
- 高橋雅春・高橋依子 1986 樹木画テスト 文教書院
- 高橋奈緒子、益岡賢、文珠幹夫 1999, 東ティモール―奪われた独立・自由への闘い、東ティモールに自由を！全国協議会
- 高橋奈緒子、益岡賢、文珠幹夫 2000, 東ティモール―

奪われた独立・自由への闘い、明石書店

津田浩一 1992 日本のバウムテストー幼児・児童を中心
に 日本文化科学社

UNICEF 2001 Assessment of The Situation of Separated

Children and Orphans in East Timor, The International
Rescue Committee in collaboration with UNICEF East
Timor-Child Protection

A Psychotic Support for Orphans by the War in East Timor

—A Survey for Orphans in pos-conflict East Timor—

MONJU kikuno, MONJU Mikio, Sr. MARIAFE Silva

Key Words : psychic trauma, Baum Test, war orphan